

京都大学構内遺跡調査研究年報

2021・2022年度

2023

京都大学大学院文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター

京大文化遺産調査活用部門

原色図版 1



京都大学医学部構内AM20区 不定形土坑出土鑄造関連遺物

原色 図版 2



京都大学医学部構内AM20区 不定形土坑出土黒織部沓茶碗

京都大学構内遺跡調査研究年報

2021・2022年度

2023

京都大学大学院文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター

京大文化遺産調査活用部門

序

本年報は、文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センターの京大文化遺産調査活用部門がおこなった京都大学構内に残る遺跡の調査のうち、2021・2022年度に整理の終了したものについて、その成果をまとめたものである。

第Ⅰ部で報告する医学部構内の発掘調査は、がん免疫総合研究センターの新営にとまない、2021年の12月中旬から2022年の5月初旬にかけて実施されたものである。その結果、中世の土器溜や井戸、中世から近世前半にかけての土取り穴、近世後半から近代の溝や井戸などが検出された。なかでも、土取り穴は、調査区の全面にわたって認められ、その採掘が盛んに進められていたのがうかがえる。くわえて、土取り穴の埋土からは、鋳型片や鞆の羽口片、また、数多くの鉄滓や鉄製品などがみつかり、調査区ないしはそれに近いところで鋳造がおこなわれていたのがみとれる。こうした成果は、調査区ならびにその周辺における土地利用の移り変わりなどについてはっきりさせるうえで、欠かすことのできない重要な素材になると判断する。今後は、この報告の内容に留意しつつ、付近の調査成果と比較検討するなどして、いくつかの課題の追究に努めていくことが望まれよう。いっぽう、第Ⅱ部の紀要は、構内遺跡からも出土する、「塩壺（しおつぼ）」と俗に呼ばれてきた鉢形土師器の考察を試みたものである。第Ⅰ部・第Ⅱ部ともにご高覧いただき、ご批評・ご意見をいただければ幸甚である。

部門では、引き続き研究成果の公表に積極的にとり組んでいる。2021年度の末には、3年にわたって手がけてきた「白川道」に係わる研究プロジェクトの成果報告書を刊行した。そして、それと関連した展示を、本学総合博物館と連携した特別展「文化財発掘」の8回目として、「埋もれた古道を探る」と題して、2022年3月16日から5月15日にかけて開催した。さらに、2022年度からは、「白川道」に関する検討の結果を基礎にして、「都市化」という観点より、それに沿った地域の歴史的な推移や意義などについて明らかにしようとする、新たな研究プロジェクトをおし進めている。今後もこうした部門の活動に、ご支援とご協力をお願いする次第である。

2023年3月

京都大学大学院文学研究科附属
文化遺産学・人文知連携センター長

磯貝 健一

例 言

- 1 本年報は、京都大学構内で2021年4月1日から2023年3月31日までに発掘、整理作業をおこなった埋蔵文化財調査と保存の報告、および京都大学大学院文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター京大文化遺産調査活用部門における研究成果をまとめたものである。
- 2 国土座標にしたがって一辺50mの方形の地区割りをして、遺跡の位置を表示した。
- 3 層位と遺構の位置については、世界測地系国土座標平面直角座標系（第Ⅵ系）により表示した。
- 4 遺構の略号は、奈良文化財研究所の方式にしたがって、井戸：SE、土坑：SKのように表示し、各調査ごとに通し番号を1から付した。
- 5 遺物には、遺跡の調査名を示すローマ数字と、調査ごとの通し番号を1から付した。この遺物番号は、本文、実測図、写真を通じて表示を統一した。
I：京都大学医学部構内AM20区の発掘調査
（例 I 1：京都大学医学部構内AM20区発掘調査出土遺物1番）
- 6 原則として、遺物の実測図は縮尺1/4、遺物の写真は約1/2に統一した。他の縮尺のものは、それぞれに縮尺を明記した。
- 7 参考文献は、本文中に〔著者名 発表年〕の形式で表わし、巻末に一括した。
- 8 古代・中世土師器の型式分類は、とくにことわりがない場合、『京都大学埋蔵文化財調査報告Ⅱ』（1981年）にしたがっている。
- 9 本文の執筆者名は各章の初めに列記した。また、遺構・遺物の撮影は原則として、それぞれ報告者が担当した。ただし、原色図版は写房楠華堂（内田真紀子氏）による。
- 10 編集は、笹川尚紀が担当し、千葉豊、伊藤淳史、富井眞、内記理、磯谷敦子、柴垣理恵子、長尾玲、西田陽子が協力した。
- 11 2021・2022年度の京大文化遺産調査活用部門内の組織は以下の通りである。
部 門 長：吉川 真司（文学研究科教授）
教 員：千葉 豊、伊藤 淳史、富井 眞、笹川 尚紀、
内記 理（2022年9月30日まで）
教務補佐員：磯谷 敦子、長尾 玲、柴垣 理恵子
事務補佐員：高山 典子

京都大学構内遺跡調査研究年報 2021・2022年度

目 次

第 I 部 2021・2022年度京都大学構内遺跡発掘調査報告

第 1 章 2021・2022年度京都大学構内遺跡調査の概要……………	1
1 調査の概要……………	1
2 調査の成果……………	1
第 2 章 京都大学医学部構内 AM20 区の発掘調査……………	3
1 調査の概要……………	3
2 層 位……………	5
3 土取り以前の遺跡……………	9
4 中・近世における土取りとその後……………	22
5 近世後半・近代の遺跡……………	28
6 小 結……………	40
参考文献……………	44
京都大学構内遺跡のおもな調査……………	47
報告書抄録……………	58

第Ⅱ部 京都大学大学院文学研究科附属
文化遺産学・人文知連携センター
京大文化遺産調査活用部門紀要Ⅳ

「塩壺」と俗称されている鉢形製品の検討（上）

- 1 はじめに－問題の所在と本稿の目的－ ……………61
- 2 対象資料の特徴 ……………62
- 3 資料認識の過程と問題の所在 ……………63
- 4 資料の集成と検討(1)－鴨東地域北半－ ……………65

図 版……………卷末

図 版 目 次

- 原色図版 1 京都大学医学部構内 A M20区
不定形土坑出土鑄造関連遺物
- 原色図版 2 京都大学医学部構内 A M20区
不定形土坑出土黒織部沓茶椀
- 図版 1 京都大学吉田キャンパスの地区割と調査地点
- 図版 2 京都大学医学部構内 A M20区
- 1 表土・攪乱除去後の全景（北東から）
 - 2 灰褐色土・黒灰色土掘りあげ後の全景（北東から）
- 図版 3 京都大学医学部構内 A M20区
- 1 完掘後の全景（北東から）
 - 2 集石の広がり（北から）
- 図版 4 京都大学医学部構内 A M20区
- 1 南部の集石の広がり（西から）
 - 2 東北部の集石の広がり（北西から）
- 図版 5 京都大学医学部構内 A M20区
- 1 S R 2・S R 3（北から）
 - 2 S R 2・S R 3（南東から）
 - 3 S X 4（南から）
 - 4 S X 4掘りあげ（北から）
 - 5 S X 5（北から）
 - 6 S X 51（北から）
- 図版 6 京都大学医学部構内 A M20区
- 1 S X 61（北から）
 - 2 S X 61（南東から）
 - 3 S E 4（西から）
 - 4 S E 4（北から）
 - 5 S X 64（南から）
 - 6 S X 2・3（東から）

- 図版 7 京都大学医学部構内 A M20区
S X 4 出土遺物
- 図版 8 京都大学医学部構内 A M20区
鑄造関連遺物
- 図版 9 京都大学医学部構内 A M20区
1 不定形土坑出土遺物
2 S X 2 出土遺物

挿 図 目 次

京都大学医学部構内 A M20区の発掘調査	図16 土馬……………22
図1 調査地点の位置……………3	図17 不定形土坑と集石……………23
図2 調査区の地区割り……………5	図18 南部集石 (S X 9) の平面図と断面図……………25
図3 東西畔南面の層位……………6	図19 不定形土坑出土黒織部……………26
図4 東西畔南面の層位 (つづき) ……………7	図20 S X 2 出土遺物, S X 3 出土遺物 ……………27
図5 土取り以前と土取り後の時期の遺構……………11	図21 近世後半・近代の遺構……………29
図6 S X 4 上部出土遺物(1)……………12	図22 S D22出土遺物, S K 1 出土遺物 (1)……………31
図7 S X 4 上部出土遺物(2)……………13	図23 S K 1 出土遺物(2), 小穴出土遺物 ……………32
図8 S X 4 下部出土遺物……………14	図24 灰褐色土出土遺物, 黒灰色土出土 遺物……………33
図9 S X 4 底部出土遺物……………15	図25 表土・攪乱出土遺物(1)……………35
図10 S X 5 出土遺物(1)……………16	図26 表土・攪乱出土遺物(2)……………36
図11 S X 5 出土遺物(2)……………17	図27 表土・攪乱出土遺物(3)……………37
図12 S X 5 出土遺物(3)……………18	図28 表土・攪乱出土遺物(4)……………38
図13 S E 4 出土遺物, S X 61出土遺物, S X 64出土遺物……………19	図29 表土・攪乱出土遺物(5)……………39
図14 鑄型……………20	
図15 ふいご……………21	

「塩壺」と俗称されている鉢形製品の検討 (上)	
図30 京大構内出土の厚手鉢形土器集合	62
図31 資料が報告された『烏丸線内遺跡 調査抄報』の表紙と挿図.....	63
図32 鴨東地域北半の対象資料報告地点 と点数.....	66
図33 形態の典型模式図とA X 28区S K 51出土品.....	67
図34 A U 25区S E 2 およびA R 19区S E 8 出土品.....	68
図35 14世紀代の遺構出土資料.....	69
図36 2つの資料群の外形輪郭の比較	70
図37 時期別にみた口径の分布.....	71
図38 口縁部形態模式図.....	72
図39 底部の諸形態.....	73
図40 底部の輪状圧痕諸例.....	74
図41 粘土帯積み上げ痕.....	75
図42 器面にみられる付着物事例.....	77
図43 鴨東地域北部における厚手鉢形土 器の変遷.....	78

表 目 次

表1 京都大学構内遺跡のおもな調査	47	表2 鴨東地域北半における厚手鉢形土 器報告資料一覧.....	81
----------------------------	----	------------------------------------	----

第 I 部 2021・2022年度京都大学構内遺跡発掘調査報告

第 1 章 2021・2022年度京都大学構内遺跡調査の概要

第 2 章 京都大学医学部構内 A M20区 の発掘調査

第Ⅱ部 京都大学文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター
京大文化遺産調査活用部門紀要Ⅳ

「塩壺」と俗称されている鉢形製品の検討（上）

伊藤淳史

2023年 3月31日 発行

京都大学構内遺跡調査研究年報
2021・2022年度

編集 京都大学大学院文学研究科附属
発行 文化遺産学・人文知連携センター
京大文化遺産調査活用部門
京都市左京区吉田本町

印刷 三星商事印刷株式会社
製本 京都市中京区新町通竹屋町下ル弁財天町300